

第251回地震予知連絡会（令和8年5月21日）各機関からの提出議題

【1】気 象 庁

1. 地殻活動の概況

a. 地震活動

(O) 全国 M5.0 以上の地震と主な地震の発震機構

要旨：2026 年 2 月～4 月の全国の地震活動概況を報告する。

3. プレート境界の固着状態とその変化

a. 日本海溝・千島海溝周辺

(S) 青森県東方沖の地震（2月20日 M5.1）

(O) 三陸沖の地震活動（最大規模の地震：3月26日 M6.7）

要旨：2026 年 3 月 8 日 22 時 17 分に三陸沖の深さ 17km で M6.1 の地震（最大震度 3）が、3 月 26 日 23 時 18 分には深さ 15km で M6.7 の地震（最大震度 4）が発生した。これらの地震は、発震機構（CMT 解）が西北西－東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した。

今回の地震の震央付近では、3 月に震度 1 以上を観測する地震が 12 回（震度 4：1 回、震度 3：3 回、震度 2：1 回、震度 1：7 回）発生した。

(O) 三陸沖の地震（最大規模の地震：4月20日 M7.7）

要旨：2026 年 4 月 20 日 16 時 52 分に三陸沖の深さ 19km で M7.7 の地震が発生した。この地震は、発震機構（CMT 解）が西北西－東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した。この地震により、青森県階上町で震度 5 強を観測したほか、北海道から近畿地方にかけて震度 5 弱～1 を観測した。また、宮城県北部及び秋田県内陸南部で長周期地震動階級 3 を観測したほか、北海道から中部地方にかけて長周期地震動階級 2～1 を観測した。この地震により、岩手県の久慈港（国土交通省港湾局）で 79cm、北海道の浦河（国土交通省港湾局）で 39cm など、北海道及び東北地方の太平洋沿岸で津波を観測した。

気象庁はこの地震に対して、最初の地震波の検知から 19.8 秒後の 16 時 53 分 23.3 秒に緊急地震速報（警報）を発表した。また、同日 16 時 55 分に北海道太平洋沿岸中部及び岩手県に津波警報を発表し、同日 17 時 08 分に青森県太平洋沿岸及び発表していた津波注意報を津波警報に切り替えた。その後、同日 20 時 15 分に津波警報を津波注意報に切り替え、同日 23 時 45 分に津波注意報を全て解除した。

気象庁は、この地震について同日 19 時 30 分に北海道・三陸沖後発地震注意情報を発表した。

今回の地震の震央付近では、4 月 20 日以降 30 日までに震度 1 以上を観測した地震が 38 回（震度 5 強：1 回、震度 3：3 回、震度 2：7 回、震度 1：27 回）発生するなど、地震活動は継続している。

b. 相模トラフ周辺・首都圏直下

(O) 茨城県南部の地震（4月1日 M5.0）

要旨：2026 年 4 月 1 日 10 時 06 分に茨城県南部の深さ 48km で M5.0 の地震（最大震度 5 弱）が発生した。この地震は、発震機構が北西－南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界で発生した。

(S) 東海・南関東地方の地殻変動

c. 南海トラフ・南西諸島海溝周辺

(S) 南海トラフ沿いの地震活動

(S) 東海地域から豊後水道にかけての深部低周波地震活動

(S) 南海トラフ沿いの長期的スロースリップの客観検知

(S) 全国 GNSS 観測点のプレート沈み込み方向の位置の変化

(S) 東海・南関東地方の地殻変動

(S) 紀伊半島中部から東海の深部低周波地震（微動）活動と短期的ゆっくりすべり
（2 月 8 日～3 月 16 日）

(S) 紀伊半島中部から東海の深部低周波地震（微動）活動と短期的ゆっくりすべり
（2 月 8 日～3 月 16 日）

(S) 紀伊半島西部の深部低周波地震（微動）活動と短期的ゆっくりすべり（3 月 19 日～21 日）

(S) 四国中部の深部低周波地震（微動）活動と短期的ゆっくりすべり（3 月 18 日～3 月 23 日）

(S) 四国西部の深部低周波地震（微動）活動と短期的ゆっくりすべり（4 月 6 日～4 月 10 日）

d. その他

4. その他の地殻活動等

(S) 北海道東方沖の地震（2 月 12 日 M5.2）

(O) 十勝地方南部の地震（4 月 27 日 M6.2）

要旨：2026 年 4 月 27 日 05 時 23 分に十勝地方南部の深さ 83km で M6.2 の地震（最大震度 5 強）が発生した。この地震は太平洋プレート内部で発生した。発震機構は北北東－南南西方向に張力軸を持つ型である。

(S) 岩手県沿岸北部の地震（2 月 25 日 M4.6）

(S) 福島県沖の地震（3 月 10 日 M4.7）

(S) 群馬県南部の地震（3 月 15 日 M4.5）

(O) 長野県北部の地震（最大規模の地震：4 月 18 日 M5.1）

要旨：2026 年 4 月 18 日 13 時 20 分に長野県北部の深さ 8km で M5.0 の地震（最大震度 5 強）が、同日 14 時 54 分に深さ 9km で M5.1 の地震（最大震度 5 弱）が発生した。これらの地震は地殻内で発生した。発震機構は、北西－南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型である。

(S) 内陸部の地震空白域における地殻変動連続観測

(S) 奄美大島北東沖の地震（2 月 5 日 M5.5）

(S) 薩摩半島西方沖の地震（3 月 1 日 M5.4）

(S) 熊本県天草・葦北地方の地震活動（最大規模の地震：3 月 15 日 M3.9）

(O) 宮古島北西沖の地震活動（最大規模の地震：3 月 2 日 M6.2）

要旨：宮古島北西沖では、2026 年 2 月 26 日から地震活動が活発となり、2 月 26 日から 3 月 31 日

までに震度1以上を観測する地震が32回（震度3：1回、震度2：13回、震度1：18回）で、これら一連の地震活動は、沖縄トラフ沿いで発生している。このうち最大規模の地震は3月2日19時39分に発生したM6.2（最大震度3）で、発震機構（CMT解）は、北北西－南南東方向に張力軸をもつ正断層型で陸のプレート内で発生した。

(O) 千島列島の地震（2月22日 M6.1）

要旨：2026年2月22日16時25分に千島列島でM6.1の地震（日本国内で震度1以上を観測した地点はなし）が発生した。

(O) 硫黄島近海の地震（3月2日 M6.2）

要旨：2026年3月2日12時55分に硫黄島近海の深さ16km（CMT解による）でM6.2の地震（震度1以上を観測した地点はなし）が発生した。この地震は、発震機構（CMT解）が、北東－南西方向に張力軸を持つ正断層型である。

(S) モルッカ海北部の地震（4月2日 Mw7.4）

【2】国土地理院

1. 地殻活動の概況

b. 地殻変動

(O) GEONETによる全国の地殻変動（水平）（3か月）

要旨：GEONETによるGNSS連続観測から求めた、最近3か月間における全国の水平方向の地殻変動を報告する。

(O) GEONETによる2期間の地殻変動ベクトルの差

要旨：最近3か月間の水平方向の地殻変動について、1年前の同時期の水平変動ベクトルとの差を取って得られた非定常的な変動の概況を報告する。

(O) GEONETによる全国の地殻変動（水平）（1年）

要旨：GEONETによるGNSS連続観測から求めた、最近1年間における全国の水平方向の地殻変動を報告する。

(O) GNSS連続観測から推定した日本列島のひずみ変化

要旨：GNSSデータから推定した、最近1年間における日本列島のひずみ変化の概況を報告する。

2. 東北地方太平洋沖地震関連

【平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震後の地殻変動】

(O) 地殻変動ベクトル

要旨：東北地方太平洋沖地震後における水平・上下の地殻変動について、全期間の累積変動の概況を報告する。

(O) GNSS連続観測時系列

要旨：東北地方太平洋沖地震後の東日本におけるGNSS連続観測の時系列の概況を報告する。

(O) 変位速度のプレート収束方向に関する水平勾配（北海道～関東地方）

要旨：東北地方太平洋沖地震後のプレート間の固着状況の変化について、電子基準点の変位速度のプレート収束方向に関する水平勾配によるモニタリングの概況を報告する。

3. プレート境界の固着状態とその変化

a. 日本海溝・千島海溝周辺

【2025 年 12 月 8 日に発生した青森県東方沖の地震】

(O) 地殻変動ベクトルと GNSS 連続観測時系列

要旨： GNSS 連続観測で地殻変動が検出されたので、その概況を報告する。

【2026 年 4 月 20 日に発生した三陸沖の地震】

(O) 地殻変動ベクトルと GNSS 連続観測時系列

要旨： GNSS 連続観測で地殻変動が検出されたので、その概況を報告する。

(O) 余効すべり

要旨： 地震時震源断層の深い部分において余効すべりを推定したので、その概況を報告する。

(O) 震源断層モデル

要旨： GNSS で観測された地殻変動を基に震源断層モデルを推定したので、その概況を報告する。

(O) すべり分布モデル

要旨： GNSS で観測された地殻変動を基にすべり分布モデルを推定したので、その概況を報告する。

c. 南海トラフ・南西諸島海溝周辺

【森～掛川～御前崎間の上下変動】

(S) 電子基準点の上下変動 (5 基線)

(S) 電子基準点の上下変動 GNSS 連続観測

(S) 駿河湾周辺 GNSS 連続観測時系列

(S) 東海地方の非定常地殻変動

(O) 東海地域の非定常水平地殻変動 (長期的ゆっくりすべり)

要旨：2022 年初頭から静岡県西部から愛知県東部において、これまでの傾向とは異なる地殻変動を GNSS で観測したので、その概況を報告する。

(O) 志摩半島地域の非定常地殻変動 (長期的ゆっくりすべり)

要旨：2024 年夏頃から、三重県中部において、これまでの傾向とは異なる地殻変動を GNSS で観測したので、その概況を報告する。

(S) 紀伊半島 電子基準点の上下変動 GNSS 連続観測

(S) 南海トラフ周辺 GNSS 連続観測時系列

(S) 南海トラフ沿いの非定常地殻変動

(S) 室戸岬周辺 電子基準点の上下変動 GNSS 連続観測

4. その他の地殻活動等

【2026 年 4 月 27 日の十勝地方南部の地震】

(O) 地殻変動ベクトルと GNSS 連続観測時系列

要旨：地震前後の GNSS 連続観測の解析結果を報告する。

(S) 北海道太平洋岸 GNSS 連続観測時系列

【2026 年 4 月 1 日の茨城県南部の地震】

(O) 地殻変動ベクトルと GNSS 連続観測時系列

要旨：地震前後の GNSS 連続観測の解析結果を報告する。

【2026 年 4 月 15 日の長野県北部の地震活動】

(O) 地殻変動ベクトルと GNSS 連続観測時系列

要旨：地震前後の GNSS 連続観測の解析結果を報告する。

(S) 関東周辺 GNSS 連続観測時系列

【2026 年 2 月 26 日からの宮古島北西沖の地震活動】

(O) 地殻変動ベクトルと GNSS 連続観測時系列

要旨：地震活動期間の GNSS 連続観測の解析結果を報告する。

【3】北海道大学

【4】東北大学理学研究科・災害科学国際研究所

(S) 2026/1/6 M6.4 島根県東部の地震及びその周辺域の地震活動と地震波速度構造

【5】東京大学地震研究所

【6】東京科学大学

【7】名古屋大学

【8】京都大学理学研究科・防災研究所

(S) 気象庁震度データベースを用いた地震予測（2025 年の予測結果の評価と発生確率値の更新）

【9】九州大学

【10】鹿児島大学

【11】統計数理研究所

【12】防災科学技術研究所

3. プレート境界の固着状態とその変化

a. 日本海溝・千島海溝周辺

(S) 日本周辺における浅部超低周波地震活動

c. 南海トラフ・南西諸島海溝周辺

(S) 日本周辺における浅部超低周波地震活動

(O) 西南日本の深部低周波微動・短期的スロースリップ活動状況

要旨：短期的スロースリップイベントを伴う顕著な微動活動は、2 月 16 日～26 日に紀伊半島中部から北部で、3 月 1 日～7 日に東海地方で発生した。

これら以外の主な微動活動として、2 月 8 日～14 日に紀伊半島南部で、2 月 18 日～22 日に四国中部で、4 月 6 日～10 日に豊後水道での微動活動が検知された。

【13】産業技術総合研究所

3. プレート境界の固着状態とその変化

c. 南海トラフ・南西諸島海溝周辺

(S) 東海・伊豆地域における地下水等観測結果 (2026 年 2 月～2026 年 4 月)

(S) 紀伊半島～四国の地下水・歪観測結果 (2026 年 2 月～2026 年 4 月)

(S) 東海・紀伊半島・四国における短期的スロースリップイベント (2026 年 2 月～2026 年 4 月)

4. その他の地殻活動等

(S) 神奈川県西部地域の地下水位観測 (2026 年 2 月～2026 年 3 月)

(S) 岐阜県東部・長野県西部における活断層周辺における地殻活動観測結果
(2026 年 2 月～2026 年 4 月)

(S) 近畿地域の地下水・歪観測結果 (2026 年 2 月～2026 年 4 月)

(S) 鳥取県における温泉水・地下水変化 (2025 年 11～2026 年 4 月)

【14】海上保安庁

2. 東北地方太平洋沖地震関連

(S) 日本海溝沿いの海底地殻変動観測結果

3. プレート境界の固着状態とその変化

c. 南海トラフ・南西諸島海溝周辺

(S) 南海トラフ沿いの海底地殻変動観測結果

4. その他の地殻活動等

(S) 宮古島北西沖の地震発生海域における海底地形

【15】海洋研究開発機構

3. プレート境界の固着状態とその変化

a. 日本海溝・千島海溝周辺

(O) 北海道・東北沖の地震のサイズ分布 (b 値) の時空間変化 (続報)

要旨：北海道・東北沖の地震の規模別頻度分布 (b 値) の時空間変化について、前回・前々回と同様、第 244 回 (2024 年 8 月 29 日) に「プレート境界の固着状態とその変化」で報告した内容の続報。2003 年十勝沖震源域の東側の、1952 年十勝沖地震で滑りの大きかった場所付近の b 値が 0.5 程度の低い値を示している。また、1968 年十勝沖地震ならびに 1994 年三陸はるか沖地震の震源域の b 値も前回同様に低い値 (0.6 程度) を保っている。その b 値が低い領域内の北では 2025 年 12 月 8 日の青森県東方沖地震 M7.5 が、南では 2026 年 4 月 20 日三陸沖の地震 M7.7 が発生し、1994 年三陸はるか沖地震の震源域が中央に残った状態で、その後も活発な地震活動が続いている。

【16】その他の機関

記載分類

(O) 口頭報告, (S) 資料提出のみ

1. 地殻活動の概況
 - a. 地震活動
 - b. 地殻変動
2. 東北地方太平洋沖地震関連
3. プレート境界の固着状態とその変化
 - a. 日本海溝・千島海溝周辺
 - b. 相模トラフ周辺・首都圏直下
 - c. 南海トラフ・南西諸島海溝周辺
 - d. その他
4. その他の地殻活動等
5. 地殻活動の予測実験